

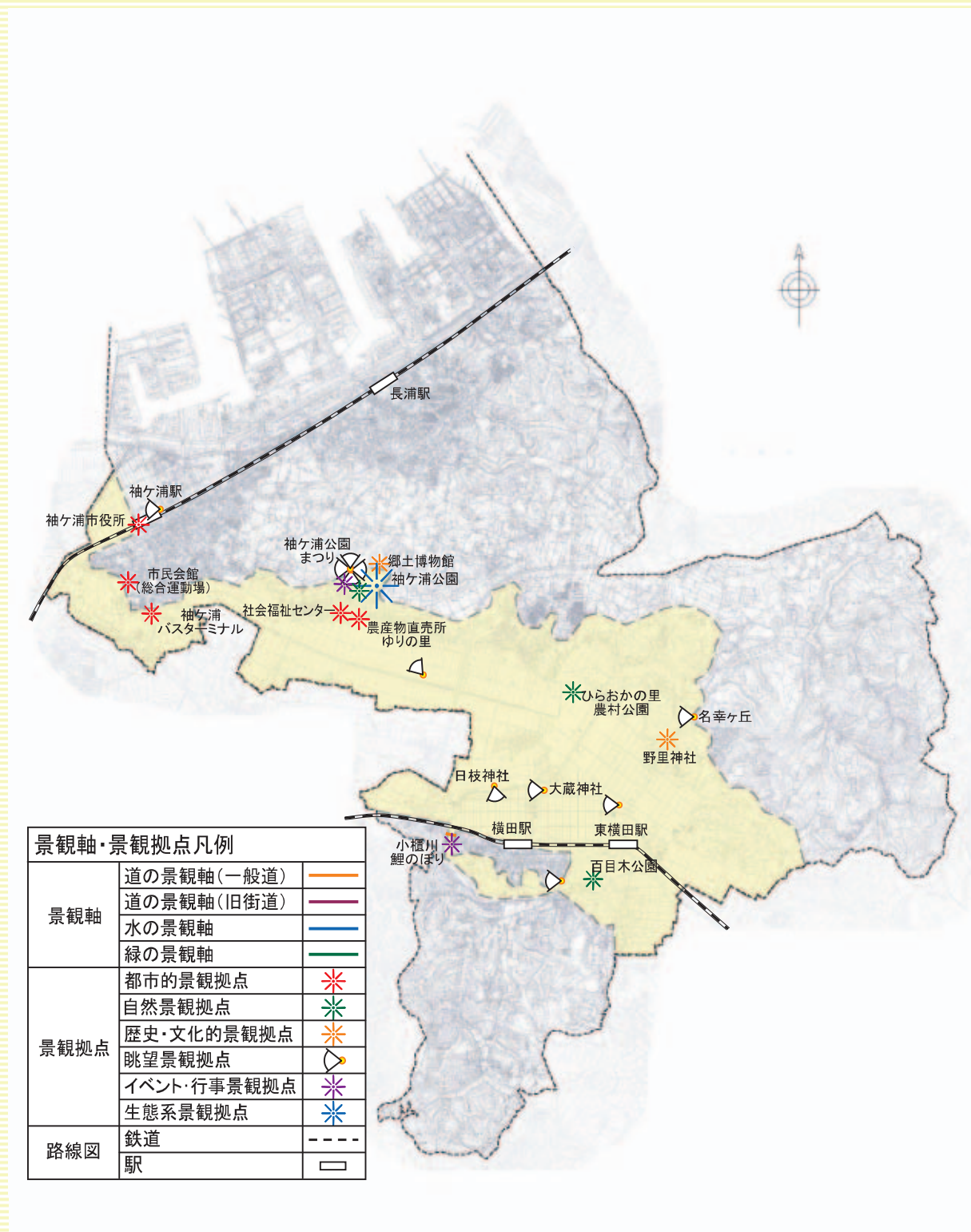
3 田園・集落エリア

地区の目標

農業を営み続け、豊かさを感じる景観まちづくり



浮戸川・小櫃川を中心として、平野部に広がる水田地帯とその周辺集落



■ 3. 良好な景観の形成に関する方針 ■

景観の特徴

- 浮戸川、小櫃川を中心に形成されている水田地帯と、南総昭和線沿い等の集落により形成されています。広域農道沿いは、花々が植栽され、稲作風景が広がる四季折々の景色を楽しむことができます。
- 整備されたあぜ道などは、心安らぐ景観の一つとなっています。一面に広がる眺望を守るとともに、農業を営み続ける環境づくりが必要です。
- 暖かく自然な印象を作り出す赤（R）、黄赤（YR）、黄（Y）系の暖色系の色相が、田園の緑よりも低い彩度で多くの建築物に使用されています。また、青色系のカーテンなどを使用した付属家も多く見られます。



景観形成の基本方針

田園や斜面林の自然環境と調和した、潤いと広がりある景観づくり



- 旧道沿いの集落など風情あるまち並に配慮した建築物や植栽等の計画とする。
- 斜面林等の緑の連続性、田園の広がりなど、地域の特徴となる風景をできるだけ遮らないように、建築物等を計画する。
- 背景となる斜面林と集落が調和した地域の風景を尊重し、潤いと広がりのある建築物等の計画とする。

河川やその周辺環境を身近に感じ、風景の広がりが望める景観づくり



- 農業の営みや四季折々の田園風景を身近に感じる環境を守る。
- 小櫃川、浮戸川、松川等の河川を身近に感じる環境づくりに努める。
- 連なる斜面林の風景や富士山の眺望に親しみ、楽しむ環境づくりを推進する。

田園や斜面林に調和する明るく親しみやすい色彩の景観づくり



- 建築物や工作物などは、開放的な田園とその背景に見える斜面林の緑よりも穏やかな低彩度色を用いるなど周囲との調和を図り、明るく親しみやすい景観づくりに努める。
- 広大な田園景観の中、遠方からも建築物や工作物などの色彩が目立たないように、周辺から突出するような華やかな色彩を避け、周辺の景観との調和を図る。